

「中期事業計画」2021年度及び2022年度の活動について

2018年の明治150年祭、翌年の大嘗祭、そして東京オリンピックを天守再建に向けた“HOP-STEP-JUMP”と見立てた「中計」の活動ヴィジョンでありましたが、取り巻く不測の事態に活動が大きく翻弄され、停滞を余儀なくされたこの3~4年でした。

しかしその一方で、この活動が社会やこの国のさまざまな事象に大きく、また深く関わりを持った活動であるとの認識を新たにするとともに、それら不測の事態の背景に、彼の地での天守再建という事業だからこその今日的意義と、この活動が目指すべき理念への思いを改めて覚えたのもまた確かであります。

■2021年度の活動と課題

月1回開催されている支部長会議の場を借り、「中計」の勉強会を、章を追うかたちで都合8回にわたって行いました。

過年度(2020年)には会員有志が主体となって「中計」の読み解きとそこからの討議をテーマに行われた経緯がありますが、前年度は「中計」の勉強会というよりはむしろそれを傍らに置いた、参加者の意見や考えをそこからそれぞれに交換し合うことを主眼に進めました。その結果、敷地が皇室用財産であることへの様々な角度からの考察によって、これまでの観光や建築的視点からの天守再建の意義に加えて、日本や国家、世界、そして、安心・安全な国づくりや教育・人づくりなどの理念的な視点が語られることで、活動の社会性や普遍性・一般性に論点が拡張され、課題となっている国民世論をはじめ会員の裾野の拡大にとって、この先の一つの指針となる見方を相互に確認し合える貴重な機会となりました。

一方、事業化へのノウハウと資金調達力及び世の中への影響力(波及効果)から、将来の建設事業会社に向けた企業コンソーシアムの設立をこれまで第一位のターゲットにしてきましたが、コロナ禍による企業を取り巻く環境変化と未だに予断を許さない事態にこれといった進展のないままに終えたことは、今後引き続き課題であります。

■2022年度の活動と目標

前述のように、これまではコンソーシアムという現役組織体のインパクトをもって一気に活動をプロモーション的に前進させることが狙いでありましたが、今年度は、特に世論形成の観点からは「中計」の主旨に親和性が見て取れる団体・機構や言論界に対し、的を絞った地道な働きかけに一旦切り替え、同時に、with コロナやVUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の頭文字)と呼ばれる世の中で、「中計」の核心部分の微調整や天守再建実現に向けた組み立ての見直しを現実に即して図りつつ、新たな機会到来に備える考えであります。

併行して、皆様からのご理解、ご賛同、ご協力を前提に、できるところから一つ一つ、原点に立ち返った思いで、また何よりも会の継続的發展を期して、以下に取り組む予定です。

- ・本格的な「中計」勉強会の実施⇒(”言葉を持つ”観点から)
- ・天守再建の「事業構想」検討会の実施⇒(”答えを持つ”観点から)

また、企業コンソーシアムに代わる活動資金の別途確保も併行する課題としていきます。